

今宮スラム素描

郡昇作

— 今 宮 ス ラ ム 素 描 —

スラム今宮の一部は元お仕置場であつた毎日の様に幾人かの生命が地蔵様を拜む度に露と消えたのであつた。この地蔵様が今でも今宮保護所の北方二丁の處にあつて地蔵として恐れられて居るのである。此の地蔵を中心とした東西約五丁、南北約四丁の地域、詳く云へば東田、東入船、西入船、海道、甲岸、山王町の一部、總稱して釜ヶ崎と呼ばれる六ヶ町が今宮スラムである。

最近筆者が調査したときの此の區域内の世帯数は三、九六九にて、その人口は三三、九八四であつた、その内譯は常住世帯三

、九四九。一夜泊りの世帯二〇にて常住者は男子六、六七〇、女子五、四九八計一二、一六八であり、一夜泊りのものは男子一、六六九、女子一四七、計一、八一六であつた。

而して此の二三、九八四名中一戸を構へたるものは八、二五〇名、全體の五九%であつて、簡易宿に止宿するものは五、七三即ち全體の四一%に相當するのである。尙此の他に空地や軒下に睡眠を取る無宿者約二〇〇を合するときには此の地域内の總人口は一四、一八四に達するのである。而して此の人口の三割は賭博、窃盜、傷

害等の犯人であり、警察の留置場を知らないものは少いののことである。

宿泊關係を擧ぐるならばアパート三、ホテル及旅館と名の付くもの三、宿屋一四、簡易宿六四計八四であつて、外に貸蒲團店が二と綿蒲團店が三ある。簡易宿の有する總室数は二、四五七にて、一ヶ月以上の常住内地人は男子二、六四六、女子一、二七二計三、九一八、朝鮮人男子五五、同女子二計五七合計三、九七五であつて、一夜泊りのものは男子一、六一四女子一四五計一、七五九總計五、七三四である。即ち男子の数は女子のその三倍である。

室の廣さは普通三疊である。これが一夜五十錢乃至七十錢である。一人の宿泊料は二十錢乃至三十錢であるが、一室に何名もが雜魚寢をするのである。三疊一室五十錢一ヶ月十五圓は、高い家賃といはねばならぬ。普通一疊一圓が市内の相場であるが此

處では五倍の五圓でそれでも尙満員なのである。

次に簡易宿の止宿人の職業を調査するに生魚、乾物、八百物、玉焼行商の如きものや、紙芝居、奔走に類するマツチ、玩具、藥、石鹼、針、タワシ等の行商人も相當にある。樽買、古袋買、灰買、屑買もある。

— 今 宮 ス ラ ム 素 描 —

手傳、仲仕、人夫、立ん坊、衛生人夫、土方、井戸掘なども多く、鋸目立、靴修繕、砥屋、巡禮、屑拾、遊藝人、洋傘修繕、帽子洗濯、下駄直しの如き収入の少い細民業者も亦多い。薪炭、八百物、古物、駄菓子化粧品、斷屑、古本商等の商人や、關東煮テキヤ等の夜店商人もあり、板場、理髮職等もある。玩具工、鐵工、サドル工、洋裁工、製本工、木箱職、ペンキ職、塗物屋、挽物職、指物大工、木挽、製材工の如きもある。何れも日傭や収入の少い職業のものとみである。故に若し病魔に犯さるゝならば

直に収入皆無となり、妻子とも別れ宿屋生活から露天生活に落ち、如何に藻掻いても更生し得ざるに至るものが大部分なのである。今宮は宿屋の街であり、犯罪人の街であり、無宿者の街なのである。

釜ヶ崎の簡易宿に於ける男女の割合は男子が女子の三倍であつて、その差は三千に及ぶのである。従つて此の三千の過剩男子(下級労働大衆)を相手とする賣笑婦の數も亦多いわけである。密淫賣の置屋は三二軒にて、賣笑婦は約八〇、その看視人は約三〇である。又男娼置屋は九軒にて、男娼は約一三〇人ある。此の變態性慾者の中の六〇は流しに依り生活をなすものである。之等は勿論單に之等の宿屋に居住のものを對象とするのみでなく、新世界、飛田方面の遊客をも相手とし、中には道頓堀や阪急方面へ芝居小屋のハネるときにボン引に出るものもある。宇治の縣祭や堺の夜市に繰込

む者も多いとのことである。顧客の中には奈良、京都、神戸あたりの紳士もあるといふ。彼等の語るところに依れば毎月東京よりわざわざやつて來る有名な紳士もあるとのことである。彼等は入時頃から夜の十一時頃まで、絶へず客引に出て居る。晝間は其筋の目の届かない住吉街道の路地の入口や、地下鐵用地、今宮第三小學校を北へ入つた通や、四恩學園の北の通り、關西線の南側、阪界線と東田交番へ通ずる道路の交又點等に出没するのである。然し午後十時以後になると街道筋にも路地にも至る處に出没する。

男娼の中には下級俳優刷れや、變態性慾者と知らずに遊んで自らが男娼に墮せしものや、又落ち者として拾はれた少年が浮氣して棄てられ流れ込んだものも多いのである。

男娼の仕込場所は主として天王寺公園の

×××であつて、次に一心寺裏、茶臼山、日本式公園の東屋等を擧げることが出来る。若し落ちもの、少年があれば、京阪神奈良方面の紳士や富豪でその道の猛者が千金を惜まらずつて来て、少年を風呂に入れ衣類も新調して白濱や有馬方面へ遊湯に出かけ一週間もしてからそろ／＼奥の手を出して一人前に仕込むのである。それが一人の主人に飽足らずして浮氣をなし主人に棄てられて男妾から男娼に墮し今宮に墮るに至るのである。今宮は男娼と賣笑婦の街である。

無宿者の密集地は今宮保護所及同所横の廣場、一本線、桑田寫眞紙工場西北隅の窪地、今池新道路を南へ突當つた場所等である。此の外にも散在せるものが相當にある。その宿所や小屋乃至は宿所兼用の押車の数は九九あつて、之に起居する男子は一、一七女子は一、二計一、一八名である。今宮は無宿者の街である。

次に此のストラムに於ける特異なる職業を擧ぐるならば職業紹介に關係するものには職業紹介所一、女紹介業九計一〇ありて、履物に關するものには下駄店九と靴店二六計三五がある。露天商店の中には古下駄のみを賣つて居るものがあり、片足にても賣るのである。履物店街の觀がある。

細民を相手とする極めて特殊なもののみである。その主なるもの、一つに寄せ屋がある。屑拾や屑買が集めてきた屑を買取り眞鍮、銅、莫大小、紙等に撰別してそれ／＼の店に賣捌く一種の仲買人である。これが此の區域内に十八ある。そして之と取引をするルンペン(權八)は千二百に達し、その中の五百は寄せ屋に同居して居り、一日の取引は、日により、景氣により、物價指數に依り、換言すれば季節により、天候に依り、又經濟界、產業界の變動に依り大差があるが、大體千二百圓平均である。此の外に空壕の蒐集店がある。「コレハ金ニナリマセンカラ貰ツテ歸リマス」と云つて屑買が持つて歸る硝子壺が寄せ屋では五厘であるが、此處では一錢に賣れるのである。その外に繩涎店が三ある。之又古繩涎の類を蒐集して居るのである。今宮は寄せ屋の街であり、屑の街であり、屑拾、屑買の街

である。

次に一層大なる金融機關を擧ぐるならば古物商がある。店舗を構へて居るものが五〇と露店ものが四五、計九五あるのである。此の外に古下駄店三、衣類店二、古着店一六がある。之等も總て古着店と見て差支へない。質屋の六も、流すことが大部分であることより考ふるならば之又古物商の中に入れられぬことはない。これが此のストラムの特徴である。以上の外に前述の寄せ屋、空壕店、繩涎店も當然此の古物商の部類に入れ得べきものである。故に此のストラムの金融機關は古物商であると考へて差支ないのである。以上の如く考ふるときは、(假令質店を除くとする)金融機關(古物商)の總数は實に一四四の多きに達するのである。至る所に古物商があるわけである。これ等の古着店は或る意味に於て質店と同じ役割を果しつゝある。法被を五錢で賣つ

た男が二三日して金が出來たときに法被を求めに行く先は以前自分が法被を金に代へた古着店か古着屋である。他により安い、より新しい法被があつても、自分の以前に賣つた法被を買ひ戻すのである。之は人情である。その代價は賣値の七倍位であることもあるのである。故に利札は質店よりも高いわけである。唯質店は法被の如きものを預らず、相當高價なものが多く、道樂者や商人を相手とするの差があるのみなのである。古物店では總ゆる古物や屑と思はれるものまでが取引される。巡禮の貰つて來た米、餅の類も、下駄も卸も出双も取引される。新しい自轉車が圓か二圓で取引されて三圓から五圓位に賣られて行く。此の外に古物組合事務所一と、變つたものでは無宿者の所持品(荷物)を一夜預りをなす荷物預り所が四もある。今宮は古物店の街である。

次に大なる注意を惹く特異なる職業は飲食物に關する店である。其の數の大なるは驚異に價するものがある。アルコールを賣る店には喫茶店、料理店、バーの如き酒が付物の店と、泡盛や酒を専門に賣る店との二つがある。その數は泡盛店一四、酒店二七、關東煮店一三、料理店一三、カフェー喫茶店及バー三〇計九七である。勞働者は一日の苦を忘れる爲と稱して盛に之を呑み寒さを防ぐ爲と稱して之をあふる。そして盛に喧嘩をし時には人殺をすることすらある。顔を見たとき云つて喧嘩をする。その餓飢道振には一般の想像も及ばぬところがある。人間が粗暴で冷淡である。道徳がないのである。或る酒店で心臟麻痺で死亡した者を検視の済むまで涎を被せてあると、直ぐその死人の上や横で猪口から酒を涎に零しながら平氣で引掛けて居るものがあつたとのことである。街路のあちらにもこちら

にも泡盛で倒れて居るものがある。二十錢の泡盛で朝から晩まで酔つて居る。スラム人には酒や焼酎の如きアルコールの含有量の少ないものでは利かない。恐る可きアルコールの街がスラムである。

昭和十一年一月九日に筆者が一日駆けずり廻つて發見した屋臺店の數は七六である六〇迄が食物行商店であつた。靴店八、紙芝居四、下駄直し一、靴直し一、時計修理一、計一〇、を除くものは次の如くスラムに應はしいもののみであつた。廻轉燒五、支那そば一、おでん二、うどん四、カツレツ一、洋食燒二、菓子二、餅二、だんご一、芋六、關東煮一四、計六〇である。スラム人は通りすがりに、職場からの歸りに、寝る前にこれ等に聚集して食欲を満たし、子供は之にて一日を露地や暗い室に送るのである。スラムは食欲の街であり、屋臺店の街なのである。

食事關係の店は三四ある。其内譯は飯屋一、すし店八、うどん店七、芋店五、ぜんざい店二、粕汁店一である。宿屋住居のものは之等の店で腹を飽へるのである。飯屋の顧客は一定して居る。ある店は乞食巡禮の顧客が多く、或る店は人夫、手傳がその顧客といふやうに。従つて飯屋にもそれぞれの特色があつて、或店では一等の残飯を賣り或る店では二等の残飯を賣る。一等の残飯は櫃に残つたものであり、二等は食ひ残りの手をつけてないものであり、三等は汁や菜で汚れたものである。飯を食ふ餘裕のないものは茶粥や、ぜんざいや、粕汁で飢を凌ぎ又身體を温める。此の點よりすればスラムは飯屋の町である。と云ふことが出来る。

嗜好店としての菓子店は九あつて、製菓所は五ある。然し之等よりもスラムを特別化するものに駄菓子店がある。その數は四

五である。餅店は六軒ある。考へ方に依つてはスラムは駄菓子店の街である。

此の外に日用食品店八、八百屋八、漬物店三、豆腐店六、水店一、パン店一、牛乳店三、うどんの玉製造所一、肉店二、米店一六、砂糖店二、果實店四、計四七がある。之等を總計するときは飲食店の數は二三〇に達するのである。若し之にアルコールを賣る店九三を合算すれば二二八となり、更に屋臺店の中の食物行商を附加するならば二八八となるのである。スラムは飲食店の密集街である。

娛樂關係のものには玉突店二、麻雀店七がある。美容關係のものには理髮店一四、結髮師一、化粧品店三計二九がある。日用品關係のものには荒物店六、文具店五、紙店二、傘店一、電氣店四、ミシン店一、油店一、金物店一、薪炭店一七、計三八があり、其他のものにタバコ店一八、時計店

二、印刷店二がある。
建築に關するものには設計事務所六、建築請負三、大工四、土砂店四、疊店二、左官一、運搬業四、建具店一、ガラス店四、塗料店二計三五がある。

娛樂及教化に關係するものは二二あつて其他の製造業又は修繕業は七一ある。次の通りである。前者には劇場二、古本店一、書籍店二、生花師匠二、三味線師匠一、植木商一、花店二、造園師一、浪花節興業元二、養魚場一、玩具店一、釣道具店一、琴製造一、蓄音機店一、幕機製造所三があり後者には卸製造四、櫛製造一、硝子壺製造一、塗料製造一、石鹼製造三、寫眞機製造一、寫眞臺紙製造一、家具製造三、萬年筆製造一、鞆製造一、かもし製造一、シャツ製造二、製箱工場一、乳母車製造一、紙器製造三、竹細工店二、鍍金所二、鐵工所八、鋳力所四、金屬拔挽物所一〇、双物鍛冶一

木型製造一、鋳力鑄製造二、鑄造業一、燒印製造一、自轉車修繕業五、モートル店一、のり店三、竹皮店一、看板店三、印刷所一がある。

以上の外に宗教的な存在に佛教六、天理教一計七の説教所と、信仰や迷信の對象として稻荷神社一と地藏尊が十五ある。露地の突當りや人の目にあまり付かない處に安置されてある。

公私の設立物には警察署一、交番所二、小學校一、幼稚園一、託兒所一、消防署一、柔道場一、法律事務所一、郵便局一、保険代理店二、家政婦會一、葬具店二、湯屋六、車帳場一がある。警察署には賭博、窃盜、傷害犯人、淫賣婦、變態性慾者が不斷に一五〇人も居て留置場は常に満員であるとのことである。車の帳場の人力車の顧客は行旅病人や行旅死亡者のみで不思議な時代運れの存在である。何人かの人が行き倒れ、

何人かの生命が昇天するのである。昔のお仕置場が今では行旅病人や死亡者の街となつて居る。

以上を要約するならばスラム今宮は誠地藏尊を中心とする十五の地藏尊の街であり簡易宿の街である。又無宿者の街であり、賣笑婦や男娼の街であり、賭博の街でもある。筆者がある子供を徳風勤勞小學校へ入學せしむる爲その親に子供のこと就て道徳的方面の事を尋ねたるに「私の子供は他人の子供の様にまだ博奕を知らないから良い、大抵小學校へ入る時分には一人前になつて居るんだ」と言つたのを考へて見ても如何に此のスラムが博奕の街であるかと知られるのである。新聞である。花札である。電車である。あらゆるものが博奕の材料なのである。

次に此のスラムは乞食、巡禮の街であり石鹼、針、タワシ等の行商人や手傳、人夫

立ん坊等の日傭労働者の街でもある。又窃盗、傷害等の前科者の街でもある。梅毒、營養不良、肺病、不具、癩疾等の病人の街であり、醫療の街であり、行旅病人と行旅死亡人の街である。酒、燒酎、泡盛等のアルコールの街であり、關東煮、すし屋、駄菓子屋、飯屋等の飲食店の街である。女紹介屋の街である。古下駄の街である。古靴街である。古着の街である。古物の街である。古物屋が金融機關の街である。又屑の街でもある。

素 単に大阪市のみならず堺市の屑も郡部の屑も大半は一時此のスラムに集合するのである。従つて今宮は屑拾の街であり、屑買灰買、繩疋買、古袋買の街なのである。寄せ屋の街なのである。

此の不衛生なスラム今宮が如何にして發展し來たつたかを考察するに、此の地は元天平九年(一〇八〇年前)西成と呼ばれ、延

喜の朝に百濟郡と改められし地名に含まれた一小部分であり、文永十一年(六六〇年前)には津江の庄と稱せられし地の一部でもあつたのである。又名吳の濱と呼ばれし風光の明美な海濱の一魚村に過ぎなかつたのである。これは今宮人が朝役をなし禁裏御厨子所に鮮魚を日々奉獻せしことに依つても知ることを得るのである。安居の天神が菅公の休息せられし休の天神であり、此の附近より乗船せられしことを考へ、更に曳船、入船、今船、甲岸、釜ヶ崎等の地名に想倒するならば直に判明するところである。

今宮名は津江の庄から今村となり、西宮より我神社の分身を祭りしより、今村の宮となり中を除きて今宮となつたのであるとも云はれて居る。今宮の我神社とは深い關係がある様である。大永二年六月六日(紀元二一八二年)の神役下知狀に今宮なる名

— 今 覽會跡が軍馬の置場所となり、更に新世界としてデビニューするに至つたのである。此の遊樂地と公園が此のスラムの發展に大なる關係のあることは、紅燈の地飛田が關係するのと同様である。今の四恩學園の裏は稻荷裏と稱せられて、そこにはバラック建の土間の市場があつた。雨除の如きものであつた。之が失敗に歸して商人が勝手に仕切を設けて住家とするに至つた様である。簡易宿の初りであると云ふ人がある。然し當時には既に街道の兩側に木賃宿があつたと云ふ人もある。

— 描 兎に角今宮の發展は第一に交通機關の發展にあつたことは間違の無い事實で、關西線、南海、阪堺、市電の開通に負ふ所大である。

(63)

第二は新世界、天王寺公園等の遊樂場の出現と、飛田に紅燈の地區が出現したこと

の大革命と都市の發展による膨脹性である大都大阪の掃き出す失業者群が就職運動に疲れた身心を休めるのは天王寺公園であり、妻子に別れ家を疊むで初めて求むる娯は今宮である。簡易宿である。日拂である。一夜二十錢である。夏は天王寺や天王寺公園が娯となるのである。二階借から路頭に迷ひ出た惨めな人々の落着く先は今宮であり、生活の爲に仕事をあれば北海道の土方に、樺太や九州の坑夫に、南洋の漁場に雇はれて行くのも此のスラムに於てである。カムチャツカからは秋漁を終へて歸り、冬南洋へ漁獲に雇はれて行くのも此處である。又地方の青年の中にも上阪の第一夜を此處で明すものがある。知人も親類もない青年が成功を夢みて大阪へ着いた日に今宮保護所を頼つて來たことがある。彼は梅田驛で汽車を下りると直に大阪で一番賑やかな處は何處ですか、と尋ね千日前と新世界を教

が記せられて居り、之が今宮我神社に今尚保存されて居る。然し今宮は徳川時代には今の東田町附近に墓場と仕置場があつて首の晒場でもあつたのである。明治の初年頃には今の南海難波驛と今宮の間はまだ茫茫たる田野であり、今宮は紀州街道と天王寺、平野への分岐點に位して居たのであるが、賑な難波に比してまことに淋しい草地であつたのである。僅に街道の兩側に少しの家並があつたのみである。それが明治十八年十二月二日に舊阪堺線の難波、大和川間が開通し、二十二年五月十四日に大阪鐵道(關西線)が開通するに及びて次第に發展の氣運を辿り二十八年八月二十五日に堺大阪間に南海鐵道が開通するに至り更に賑ふに至つたのである。然し此の地が急激なる發展をなすに至つたのは明治三十五年(第五回勸業博覽會が開かれて以來のこと)である。三十七八年の戰役の時には此の博

へられ、天王寺公園で日が暮れて、無宿者に保護所を教へられて來たのである。新聞雜誌で華やかな都市に魅せられ、修學旅行で心を奪はれ、見學旅行團の老人達の土産話に驚異の目を見張り、歸郷した成功者(不成功者は父母が死亡しても歸郷せず行旅死亡人として行衛不明となるものが多い)の成功談に胸をときめかし、疲弊せる農村を振り捨て、出て來る青年が多いのである。華やかで、仕事と金があり、成功し易いと考へられて居るのが都市である。今宮は斯くして今では單に大阪市の落伍者群の集合所であるのみならず、全國よりの過剩青年や怠惰者、犯罪人等の集合所と化し、之等の人の中より多くの癡人を生産する地區となりつゝあるのである。惡徳と惡疫の大量生産地ともなつて居るのである。故に今宮は單に都市の疾病であるのみならず、實に日本の一大痼腫なのである。そして此の總

ゆる病氣の集合よりなる痛腫を治療の對象として今では今宮第一方面事務所、今宮警察署、四恩學園、清眞セツルメント、今宮診療院、今宮更生道場、市立今宮職業紹介所、市立今宮保護所等がスラムの中心に位置して、又スラムを取り圍むで、自強館、みのり園、大阪職業紹介所、同上宿泊部等の公私の社會事業機關が大なる役目を遂行しつゝあるのである。昔日に比して面目を一新するに至つて居るのも當然である。近く徳風勤勞小學校もスラムの中心に移轉し來る筈であり、市立の市民館も設けらるゝことゝなつて居る。期して待つべきものがあるかと考へるのである。加ふるに現に大阪市の地下鐵が梅田より難波、大國町を経て阿部野橋へ開通されんとして居り、之が爲にスラムの北部は切り開かれて衛生的な設備が施されつゝある。そのスラムに及ぼす影響の大なるは論なきところである。當局

者の言に依ればスラムは第二の新世界となり、スラムは解消することであるが、交通が便になり、殘飯の供給所である飛田遊廓があり、失業者の慰安場である公園が

あり、飲食店があり、酒店があり、簡易宿がある限りは地下鐵が開通しても直に細民街が大和川に南下するものとは考へられないのである。

執筆者紹介

- | | |
|-----------|-----------------|
| ▽菊池 勇 夫氏 | 九大教授 |
| ▽大林 宗 嗣氏 | 大原社會問題研究所員 |
| ▽大久保直 穆氏 | 日赤大阪支部病院副院長(醫博) |
| ▽岬 峻 隆 範氏 | 財團法人弘濟會主事 |
| ▽百田長次 郎氏 | 大阪市豊崎第四小學校訓導 |
| ▽古田誠一 郎氏 | 財團法人聖ヨハネ學園長 |
| ▽和田 豐 種氏 | 阪大醫學部附屬醫院長(醫博) |
| ▽米谷 豐 一氏 | 大阪市社會部保護課員 |
| ▽井上吉次 郎氏 | 大阪毎日新聞社員 |
| ▽郡 昇 作氏 | 大阪市立今宮保護所主任 |
| △岩崎 佐 一氏 | 桃花塾長 |
| △生 村 孝 之氏 | 日本女子大學校教授 |
| △辻 江 又 男氏 | 社團法人朝日新聞社會事業團囑託 |
| ▽尾 關 一 夫氏 | 島根縣社會事業主事 |
| ▽難 波 紋 吉氏 | 同大教授 |
| ▽谷 川 貞 夫氏 | 日暮里愛隣團主事 |
| ▽河 村 靜 觀氏 | 中央職業紹介事務局屬 |
| ▽宮 古 二 郎氏 | 社會事業研究家 |
| ▽速 水 寅 一氏 | 兵庫縣立兒童研究所長(醫博) |